

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター この街きっず学園 通園事業		
○保護者評価実施期間	2025年11月21日 ～ 2025年12月12日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40名	(回答者数) 40名
○従業者評価実施期間	2025年11月21日 ～ 2025年12月12日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	37名	(回答者数) 37名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月27日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	分かりやすい開かれた環境づくり	スケジュールや視覚支援等が構造化されて、分かりやすく集中しやすい環境を作っている。安心して一人一人が生活しやすく工夫している。中の子どもたちが気が散らないよう部屋の両サイドの戸にマジックミラー付けて配慮している。部屋の中から見えないが、廊下から姿が見えるため、職員や保護者など誰でも活動内容を見学できる。	スケジュールや視覚支援等、子どもに分かりやすい生活環境を保護者と共有し、家族ができる支援の提供を充実させていきたい。
2	分かりやすい開かれた環境づくり(職員間の連携)	複数担任制のため、子どもたちの安全に配慮し、部屋を退出する際誰とどこへ行くかなど常にお互いが声を掛け合いながら支援している。子どもの安全のため、児童発達通園と放課後等デイサービスの職員が協力しながら、支援の充実を図っている。多職種(保育士・児童指導員・訓練士ST/OT/PT・嘱託医・看護師・栄養士などがそれぞれクラスに入り連携した支援を提供している。	職員の資質向上(知識の獲得、技術の向上)のために、それぞれの立場で学びあえる環境を整えていきたい。
3	丁寧な移行支援	保育園・幼稚園・学校等に移行していく子供たちの見学・体験に同行し、受け入れ先へ丁寧に引継ぎを行っている。移行支援会議の開催、移行先の職員の見学を受け入れ、情報の共有を図るなど	移行してからもニーズに応じて連携を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人材の育成・確保	女性の多い職場でもあり、結婚や出産での退職や産前産後・育休取得が重なる。そのため、経験を積んだ中間層の年齢の職員配置が安定しない。	複数担任制なので、キャリアのある職員から実践を通してアドバイスをもらいながら、専門性を磨いていきたい。くろみん認定を取得していること等、働く女性を応援している法人としてのアピールをしていく。業務時間の効率化を図り、より働きやすい環境を作っていく。
2	業務量の多さ・休憩時間の確保	記録が多くバス添乗や長時間対応等、子どもたちのいる時間に休憩をとることが難しい現状がある。	清掃の委託等を利用し、職員の雑務量を減らし休憩時間の確保に配慮している。その他業務の効率化に向けて、ICT導入を検討していきたい。
3	保育にかける保護者支援	国の定める療育時間、5時間(9:30～14:30)に対して、現在必要なご家庭には2時間延長し7時間(8:30～15:30)で受け入れをしている。家庭訪問や個別懇談等による半日登園や通い始めの慣らし期間の親子通園、家族の感染症における様子見体園等に関して、フルタイムで働くご家庭では、療育施設を使いたくても、保育園を選ばざるを得ない現状です。	タイムケア等不足しているため、家族支援として、地域全体で資源の開拓を進めていくが検討していきたい。